

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成23年12月22日(2011.12.22)

【公表番号】特表2010-515049(P2010-515049A)

【公表日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【年通号数】公開・登録公報2010-018

【出願番号】特願2009-543982(P2009-543982)

【国際特許分類】

G 0 1 N 30/56 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 30/56 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月18日(2010.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

分離媒体スラリーをカラム又は容器へ供給する前にタンク内の分離媒体スラリーを懸濁させる方法であって、

媒体スラリーが沈殿している場合にはタンク内の最上部の液相部から液体を送り出し、前記液体をタンクの底 8 からタンク内へ突出しているノズル 9 に供給し、

タンク内で沈殿している媒体中にノズル 9 からの液体が噴射され、これにより沈殿した媒体が再懸濁し始めるようにノズル 9 に圧力を印加し、

既に懸濁し始めた媒体スラリーを攪拌するために、タンク内に設けられたインペラ 7 を始動させる、

ことを特徴とする、タンク内の分離媒体スラリーを懸濁させる方法。

【請求項 2】

タンク内に設けられ且つポンプ 3 を通してノズル 9 に接続された調整可能パイプ 5 の開放端 6 の高さを、沈殿し始めている媒体スラリーの液相部の高さへ調節することを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

分離媒体スラリーをカラム又は容器へ供給する前に分離媒体スラリーを懸濁させるために用いられるタンクであって、

媒体スラリーを混合するために回転するインペラ 7 と、

タンクの底 8 からタンク内へ突出して設けられているノズル 9 と、

タンク内に配置された、位置調整可能な開放端 6 を有する調整可能パイプ 5 とを備え、ノズル 9 と調整可能パイプ 5 とはポンプ 3 に接続されており、このポンプは調整可能パイプ 5 の開放端 6 がタンク内の最上部の液相部に位置決めされた場合に調整可能パイプ 5 から液体を送り出すものであり、媒体スラリーが沈殿しはじめた場合に液体を、タンク内の沈殿した媒体を再懸濁し始めさせるためにタンクの底 8 からタンクへノズル 9 を通して噴射して戻すものであることを特徴とする、

分離媒体スラリーを懸濁させるために用いられるタンク。

【請求項 4】

前記インペラ 7 は、ノズルからの液体の導入によって沈殿した媒体が再懸濁し始めた後に始動するようになっている、ことを特徴とする請求項 3 に記載のタンク。

【請求項 5】

インペラはタンクの底 8 の近傍に設けられている、ことを特徴とする請求項 3 又は 4 に記載のタンク。

【請求項 6】

前記インペラ 7 はタンクの高さ方向に沿ったコイルのように設計されている、ことを特徴とする請求項 3 から 5 の何れか一項に記載のタンク。

【請求項 7】

上記請求項 3 から 6 の何れかに記載のタンクと、調整可能パイプ 5 とノズル 9 とに接続されたポンプ 3 とを備えている、タンクシステム。